

川又 由美恵 議員

(一般質問)

- 1 公民館の運営について
- 2 四国ステイネーションキャンペーンについて
- 3 プレミアムフライデーについて

公民館体制の

更なる充実を！

問

公民館の体制については、平成28年12月定例会で質問した際、「今後、地域自治組織のしくみや在り方などの課題を整理する中で、公民館の在り方についても定まってくると思われるため、一定の時間をかけて総合的に検討を行い、今後の体制に係る方向性については、平成29年度までに示したい」との答弁があったが、平成29年度を目前に控え、今後、どのような体制により、公民館活動を運営していくのか。

答

公民館は、従来から行っている婦人学級や高齢者学級などの生涯学習に加



西条市中央公民館

え、地域課題を解決する取組として、防災や先人の顕彰、放課後子ども教室など、地域密着型の生涯学習活動を推進しているところであり、今後においても、地域自治組織の基盤づくりに向けて、公民館の役割は必要性を増すと考えている。

平成29年度から当面の間は、基本的に非常勤館長と主事2名の3名体制を維持しつつ、平成25年度から主任主事として公民館に配置してきた正規職員などに替えて、実務経験豊富な再任用職員の配置を順次行う。また、次の段階としては、地域自治組織との連携や支援の強化を図るため、公

民館長の勤務時間を週20時間から週30時間程度とし、再任用職員などを配置することで、体制の充実を進めていきたい。更に、現在、週38時間45分勤務で任命している嘱託職員については、将来的に週30時間程度の勤務とすることで、今日的な就労形態の多様なニーズに対応した就業機会の創出につながるかと考えている。

今後の方向性としては、市民との協働のまちづくりを支援する公民館体制として、勤務時間が週30時間程度の館長及び主事2名の3名体制が必要であると考えており、順次、体制を整えていきたい。

藤井 武彦 議員

(一般質問)

- 1 市民の安心・安全を確保するための消防体制の構築について

安心・安全を確保する

消防体制の構築を！

問

近年、警防・予防業務の多様化や複雑化、ま

た、救急業務の増加や高度化、大規模災害への迅速な対応のほか、テロ災害への的確な対応の要請など、消防に対する住民のニーズはますます増えている。こうした中、救急現場において、消防隊と救急隊が連携して救急・救護活動などを行うPA（消防ポンプ自動車・救急自動車）連携の必要性について、どう捉えているのか。

また、愛媛県が平成29年2月1日から運用を開始したドクターヘリを活用することにより、どのような効果が期待されているのか。更に、出動を要請する際の基準は、どのように定められているのか。

答

PA連携は、消防隊が救急現場で救急隊と連携して、傷病者の救出、救護処置を迅速かつ確実に行うもので、傷病者の救命率向上及び市民の安心・安全の確保が期待できる。

ドクターヘリは、その運航により、早い段階で救急の専門医師や看護師による医療行為が開始され、適切な医療機関への迅速な搬送が可能とな

ること、救命率の向上や後遺症の軽減、傷病者の早期の社会復帰が期待できる。愛媛県からは、統一された5つの出動要請基準が示されており、①生命の危険が切迫しているか、その可能性が疑われるとき、②救急現場で医師による緊急診断・医療などの処置を必要とするとき、③重症が疑われる患者であつて搬送に時間を要することが予想されるとき、④特殊救急疾患の患者（重症熱傷、多発外傷、四肢切断など）で、特に搬送時間の短縮を図る必要があるとき、⑤その他ドクターヘリの出動を要請することが適切であると判断するときに要請することができるとが



愛媛県ドクターヘリ